特集「祝言のあいさつ」編集の経過

友定賢治

１９９０年度の方言研究ゼミナールで、「方言資料集」を継続的に刊行していこうという合意が、学問的意欲の盛り上がりの中で生じた。前項に記されているとおりである。そして、編集が幹事５名に一任された。それ以後の経過を簡単に報告する。

まず、基本方針を次のように決めた。

（１）特定のテーマで、全国を見通せるものにする。

（２）毎年一度刊行する。そして、テーマはゼミナール期間中に決められない場合には、幹事の協議によって決める。

（３）幹事一名が編集を担当し、他の者が協力する。

（４）執筆者にワープロで作成した原稿を提出してもらい、それを印刷する。

（５）多くの人に執筆を依頼し、継続的に刊行していくためには、調査が大きな負担にはならないものにする。ゼミナールの自己資金で刊行する以上、費用の面での制約もある。

このような方針で、最初に、幹事それぞれがテーマと調査票の原案を持ち寄って協議した。あいさつ、呼びかけ表現、比喩表現、意味分析などの案が提出されたが、重要性・基本性・社会的要請・体系性などを議論し、「あいさつ」を今年度のテーマとして決定した。そして、「祝言のあいさつ」を資料集として報告することとした。

ここで、「あいさつ」というのは、あいさつ行動全体を含む概念で使用するが、特に、「あいさつ」ということによって、あいさつことばの一連なりを総体として把握しようとしたものである。

『ＮＨＫ全国方言資料』には「祝儀」があるが、場面を尽くしたものではなく、結婚式だけでもない。また、結婚式のスタイルは大きく様変りしてきている。それにつれて、あいさつも変化しているであろうし、かつての言い方も、まだ聞かれるかもしれない。早急に記録しておく必要がある。

また、方言地図で見ることができるもの以外に、一定の調査票に基づいた体系的な全国的資料を、我々はどれだけもっているだろうか。「結婚式ではどんなあいさつを各地でしているのか」という問いに応えられる資料はあるだろうか。ここにも、我々が資料集を作ろうとする意図がある。

そして、幹事全員で祝言のさまざまな場面を想定しての調査票を作成するとともに、全国各県をどなたに担当してもらうかを決め、依頼した。調査費も原稿料もなく、ワープロで原稿を作成してもらうという勝手な依頼を、多くの方々が快く引き受けて下さった。２地点報告下さった方もいるし、幹事には依頼

する心当たりの人が見つからず困っていた県について、わざわざ協力者を紹介して下さった方もいる。学問的誠意を強く感じたことである。

また、留学生の方にも、母国での言いかたを報告してもらった。これも、新しい方向であると思う。以後の資料集についても、同様にしていきたい。

執筆者の原稿を幹事の間で読み合い、疑問点・校正箇所などがあるものは、再度執筆者に検討してもらった。

多くの方の誠意で出来上がった資料集である。